

科目名: 環境論入門		科目コード	FB61
科目主査: 勝田 悟		単位	2
担当講師: 勝田 悟、金澤 義人、木船 康徳、 志田 崇、高山 清次		配当年次	1
授業の目的と概要	グループワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	個人ワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	カマ・マイクの必要性: <input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 望ましい <input checked="" type="checkbox"/> 不要
<p>「環境学」は、学術分野として、まだ新しい分野です。現在では、「予防」の観点を取り入れることが積極的に行われており、地球温暖化原因物質の排出権取引や環境商品の開発が経営戦略の中に取り込まれています。すなわち環境戦略は企業経営において極めて重要性を増しているといえます。</p> <p>本科目では、環境分野の基礎的な「知識(理論)」と社会的な動向を組み合わせることで学習を進めていきます。</p>			
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名:	
履修の前提となる知識 その他特記事項	事前にテキストを熟読し、わからない点や自信のない点があったら、チェックしておきましょう。		
テキスト	『環境学の基本』勝田 悟, 産業能率大学出版部, 2015年		
この科目の到達目標	①環境問題の体系を理解し、その解決のためにどのような行動が求められているかを概ね説明できる。 ②国内外で行われている環境問題対策について、実際の動向を理論的に考察することができる。		
成績評価の方法	「授業に取り組む姿勢」として講義途中で理解確認のための試験またはレポートを行います。講義への積極的な姿勢は加点の対象とし、遅刻、居眠りなど、消極的な姿勢は減点の対象とします。「最終試験」は、記述式の問いを、講義の内容の全般的な部分から出題します。		
事後学習	・新聞、ニュースなどで報じられる環境問題について自分なりに考えてみること。 ・身近な環境問題について分析・改善策検討を実施してみること。 ・本学習を踏まえて職場や地域活動(生活)などで、企画・提案などを考えてみること。		
事後学習の参考文献	『気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート2018～日本の気候変動とその影響～』環境省等, 2018年 『環境概論 第二版』勝田 悟, 中央経済社, 2017年 『環境責任』勝田 悟, 中央経済社, 2016年		
スクーリング受講時に用意するもの			
<input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具			